幼稚園細目

馬場定二

幼稚園に於けるお噺の用

一般に時と處とを選ばず、苛くも子供を喜ばすに足るものであれば其れ自身價値の要素を含んで居るものであつて多少でも個人の發達の上に有效なものであるとはフレーベル氏の主義として世に承認せられたる處である。故にフレーベルは、ボールとか人形等の如く各時代に於て共通的に子供を喜ばした所の玩具は明かに教育的價値を持つて居るものと信じて居た。各時代の間の秘密の領域を潜つて傳つて來た所の傳統的の遊戯の如きも同じ意味に於て本態の價値を有し、從つて生命を持つて來たのである。お噺は其自身に善の要素を含めると共に是等玩具、遊戯と同樣にして子供等の教育に貢獻して來たものに屬するのであるから、幼稚園の仕事に於てお噺が重要なる地位を占めて居る事に就いては今更驚くに足らぬわけである。

お噺の作用

色々な形のお噺は、種族の發達に關しては決して無意味のものでは無かつたのである。古代の巡回歌人、Bards は尊敬すべき話し手であつたものだし、昔の詩は今日吾々の古典である。お噺を好む事は子供に限つたわけでは無いので、擴大せられ、工夫せられたる形のお噺は、今日其の魔術の許に無數の青年や大人を引きつけて居るでは無いか。「人の教育」によりて見るにフレーベルは子供がお噺を好む理由を次の如くに考へて居る。お噺は其の色々の場合に於て、子供等の爲に子供自身の小さい生活を表はすものであつて、其の生活たるや子供に丈は朧ながら認められるものであるが、自分の語彙が限られて居る爲に之を發表する

事が出來ない事と自分の未だ充分に統御せられて居ない生活を其以上のものとして發表せられる事とに對しての憧憬を以て滿されて居るものである。お噺殊に仙人噺 Fairy tales に於て見出さるゝ所の親切、同情、誤解、誘惑及不幸なる習慣に對する苦しみ、豪傑的冒險及び偉大なる克己等は自分自身の未熟なる企を自分の世界に適用すべき暗示を與へるものである。恰も大きな小說が大人に人間精神の世界的歷史を描かしむると同樣に良く工夫せられたるお噺は子供に對して其の歷史の始めを描かしむるものである。大人にとつては鈍い想像に過ぎない樣な事柄でも小さい子供にして見れば生命と、活力と、眞理とを以て溢れて居るものである。何となれば是等のお噺は子供等の經驗を暗示し時としては困難に打ち克つべき道を示し、のみならず他では全く求むる事の出來ない心の養分を其擴がりつゝある精神に供給するからである。之幼稚園に於けるお噺の用の第一理由を貢獻するものである。

お噺の實際上の價値

小さい子供に對してお噺が價値のあるものなる事を實際的にもつと闡明にして欲しい人々の爲に私は、お噺は子供等にとつては文字の始めであるといふ事を附け加へ度い。何となればお噺は適當に選擇すれば子供に其の第一の趣味を與へ、且いつかは本を讀む樣に導く所の、善良なる文學に對しての食欲を增すものであつて人は之が無ければ遂に唯不耗の存在に導かれるものであるが、讀書に由つて初めて其の心を友無き孤獨の寂寥から免かれしめるものである。

夢と本とは共に一つの世界である。
人は知る、本は眞實の世界なることを
而も純にして善良なる。
之を强き莫にて卷く時は
吾々の慰めと幸福とは、
恰も新なる血の如くに湧かん。

(Words wor this Ior a.eal Talk)

お噺に由つて子供等は偶然的に其の語彙を擴大して其發表の資本を增すものである。尙又お噺が子供を善に導き、價値多き理想へ刺戟する直接の手段となる事は決して稀な

事では無い。殊に仙人譚は善良なる行を養ふ上に役に立つものであつて、其譚の背景法に由る貪欲、不正直、慘悟、租暴の如きは全く其の反對の美しき寛大、正直、親切及禮義等の美點を說明して、是等の美德を明かにし且極簡單に之を示すものである。

材料の選擇に於ける二つの誤

お噺の選擇をするに方つて、保姆は其の材料の非常に豐富なる事を知る。古典的の噺、神話、傳說、仙人譚等の誘惑の外に善惡種々なる現代的の澤山のお噺が其の選擇を待つて居る。此の豐富なる材料を持つて保姆は其の選擇上に二つの危險の潛伏せる事を知らねばならぬ。其の一つは善きお噺が澤山ある爲に細目に載せ過ぎる事であつて、餘り澤山のお譚を提供し過ぎる爲に子供は精神的不消化を來す樣な結果に至ることである。其の二は幼稚園時代の子供の諒解以上の程度の噺を提供せんとする傾向に陷り易い事である。十歲乃至十二歲位の子供の同化力を此の時代の子供に負はせんとするのである。お噺が美しくして自分の嗜考に合致する爲につい其に釣り込まれて、其の噺をせねばならぬとするのである。若し之に劇的の氣分を加味して話すならば子供の注意を惹き之を緊張せしめる爲に、子供には單に噺の外殼しか解つて居ないのに、其の意味が充分子供に徹底したものとして得意になるのである。併し乍ら實際其のお噺の美と眞理とは子供等の誤解以上のものなのである。かくして保姆は二つの目的を破つたものである。其の一は自分自身の努力、其の二は他の先生の努力に對してゞある。他の先生といふのは後に小學校の幼學年に這入つて既に其の諒解力が出來、其の價値を充分に認める事が出來る樣になつて來た時、既に幼稚園に於て早過ぎた時代に聞かされて居て、其話の艶が消え失せて居るのに更に之を提供しやうとする場合である。幼稚園時代に認められた以上に其の發達が、より熟したる要求と諒解とに適應して居ると判斷して、右の如き子供の居る組に一のお噺を提供すると、其の先生が此の組から受ける所の憎らしき挨拶はいつも「其のお噺はもう幼稚園で聞きました」である。

お噺の選擇に關しては保姆は鋭い眼識を用ゐねばならぬ

子供の爲に書かれたお噺の大部分は、昔のも現代のも共に今日吾々が取扱つて居る未熟なる幼稚園の子供には不適當であると云ふ事を知らねばならぬ。例へば最もありふれたイソップ物語の中にでも四歳乃至六歳の子供に諒解せらるゝものは僅かしか無いのである。神話や多くの傳說等も一般に同樣である。勿論個人的の例外はある事ではあるが、上述の事は吾々の幼稚園に於ける子供の大多數に關しては眞理である。古典的の仙人譚は保姆にとつては效果ある研究の餘地のある部分である。アンデルセンの美しい仙人譚は殆んど除外例なく大きい子供の爲に書かれたのである。"Little Bela and the Lane Giant," "Pruice Hapweda" の如きは念の入つた象徵を含んで居る所の子供を悲きつける話ではあるが、幼稚園の子供には其の展開があまり高尙すぎる。此の事は現に或る幼稚園に於て話されて居る事實もあるから、不必要の言ではないと思ふ。"Miss Rihards' the Golden wisdoms" の美しい例話は小さい子供にと云ふよりも寧ろ大人に適して居るものであつて二三の除外例の外は同樣の事が言へる。又或る場合には、其の原形に於ける一部を切り取つて幼稚園の子供に適當したものにする事が出來る。併しこれが良い方法であるかどうかは勿論疑問である。併しお噺の中でも非常に勝れたもの、完全に作られたものなどは決して切斷してはいけない。こんな種類のお噺は子供等がもつと後になれば好んで聞きもし又能く其の全體を味ふ事が出來るものであるのに、多くの保姆は何故之を考へないのだらう？長い經驗のある保姆は屹度始にはこんな種類のお噺を澤山に提供したものである。保姆にとつては面白くもあり又好きであつたに違いない。子供等が默つて聞いて居るから、屹度其の話の眞理と美點とが子供等に解つたのだと思つて居た。處がいつか子供の心理狀態から考へて、今まで子供が諒解したと思つて居た事は間違であつて、子供の心としては不可能だといふ事に氣が付いて、それならば何故子供等は默つて聞いて居たらう？と考へて來るのである。子供等はあのお噺を聞いてほんとに滿足したのだろうか？そうとすれば、そんな未熟な智能に應ずる樣に誤つて聞いたのだろうか？或は "The Awaken ing of Helena Ritchie" に於けるダビッドの如くに、先生

の顎が何度動いたかを研究する事に誘惑されて居たのだろうか？

かくの如く子供等の爲に書かれたおにの大多數は幼稚園に於ける子供よりはもつと大きい子供の爲に書かれたものであるのだけれども、選擇をすべき充分に大なる餘地が存してあるのであるから失望するの要はない。子供の心に重荷を負はせ過ぎてはいけないと言ふ事を記憶して置く必要がある。好いお話は反復に堪へるものであつて其のお話に對する子供の好愛は、これに親しむ程強くなるものである。變化を要求する所の止み難ない望みの爲に心がためらつて來る樣な事を子供の心に起させる心配はない。却つてあんまり澤山なお話を提供すればそういふ結果になる。

よきお噺の重なる特徴

重に何んな特徴を持つたお話が幼稚園時代に適するのであるかと言ふ事を考へるのは無益では無い。是れに由つてお噺の選擇を都合よくする手引となり得るのである。

幼稚園の子供は原始的の要求、原始的の感動、原始的の發表に關するお話を要求するものだといふ事は、間違ない事と思ふ。是は子供自身の生活と一致するからである。子供は込み入つた脚色をつかまへる事は出來ないのであるし乃至は又近頃の仙人噺のあるものが要求して居るが如き微妙なる分解をも同樣之を捉へる事が出來ないのである。

子供の要求に過するお噺は直接子供の想像に觸れたものであつて、其の反應の即時的のものでなければならない。子供は其結果に到達するのに廻り遠い路を取る事には興味を持たない。又動作に豐富であつて其の發表は簡單で且つ言葉がはつきりして居る事が必要である。又反復する事及び直接說話は必ず必要だといふ迄では無いにしても、小さい子供に聞かせるお噺の理想としての特徴とする事が出來る。昔噺として有名な「三匹の熊」「三匹の小さい豚」及び「小さい赤い牡雞」のお噺は幼稚園時代の子供に聞かせる完全なお話として總ての必要なる要素、即ち活動、脚色の單純、簡單、言葉の明瞭、反復及び直接の說話等を最も有効に組合せたるものである。右のお噺は古典的お伽噺であつて、小さい子供に即刻の訴をなす爲に其の生命は永久的

のものである。此の噺を書いた人は小さい子供をよく了解して居つたに違いない。

グリム兄弟の蒐めた仙人噺（フェアリーテース）の中の僅かとイギリスのフエアリーテールスの幾分かとは殆んど理想的に極小さい子供に適つたお噺である。子供の行爲を述べた單純なる勇敢なお噺及び殊に動物の勇ましい行を述べたお噺は子供に歡迎せられるものである。

滑稽なお噺も、特に滑稽が分明で單刀直入な場合には子供の感與に訴へるものであるけれども、其の滑稽の性質が巧妙に出來上つて居る場合には全然平面的に陷つて仕舞ふ。

滑稽の感じといふものが人生に於て重要なる部分をなして居る事を認めるならば時々眞に滑稽なお噺を提供する價値を承認をする事が出來る事と思ふ。滑稽の感じは吾人大人にとつては實に安全辨であつて、心からの笑は全く好い事である。

之に反して歴史的のお噺は幼稚園時代の子供には殆んど適しないといつてもいゝ。概してこの時代の子供は長い時の期間を諒解する事が出來ないもので、お噺で歴史の事實を子供に知らせ樣とする事は時間と折角の材料とを浪費するものと云つて好い。自然界の或る事實を知らせる爲に自然界のお噺をする場合には類似治療藥としてしなければならない　自然界の知識を幼い子供に得させるには自然に接觸させる事が特策である。けれ共子供の知識の範圍内で自然界の事實を説明する事が出來て而も安全使ふ事の出來るお噺も少しはないでもないし、又動物生活のお噺で愉快に取扱ふ事が出來て、子供にも充分面白くて利益も少くないものも相當にあるのである。或る指定された樣式で何か必要な事項を授け樣とする丈の目的で道德的のお話をするなど言ふ事は、幼稚園では殆んど其餘地が無いと言つても好い。吾々が使用するお噺はすべて道德的價値を持つて居ると云つて好いものであつて、其のお噺に由つて其の多くは小さい子供の心に植付けらるゝ所の眞理的な、古風な、むしろ子供の反感を買ふ樣な道德的なお噺よりもいくら有效であるか知れない。

お噺の説話

幼稚園ではお噺は讀むことよりも話すことが習慣になつて居るのであつて、こんな小さい子供を取扱ふ上には、稀な除外例の外はこの方法に據るのが好いと思ふ。元來お噺は親しみのものであるから、之を子供に傳へるのに、讀むといふ媒によるよりも話すといふ媒に依つて一層親密に子供に接する事が出來るのである。保姆は話すことに由つて自分の組の子供の直接の求に應じ、且つ之を一層劇的にそして實際らしくする事が出來、かくして子供等の興味と注意とをよりよく保つて行く事が出來るのである。又お噺は親しみのものであるから、之を話すのには保姆の周圍に子供を呼び集め、そして集つて來たその小さい團體に親しく話してやらなければならぬ。廣場に全體の子供を座らせてお噺を聞かせやうなど云ふことは大きな間違で、こんな場合全體の子供の注意を惹きつけておく事は極めて稀な場合の外は出來ない事であつて、この方法をとつて居る保姆を見ると誠に氣の毒に思ふのである。遠く後の方に居る子供に對して、澤山な聽衆を横ぎつてお噺を投げんと力め、更に一番前に居る子供の注意を保持せんとし、同時に未だお噺の美を捕へる丈に十分に年をとつて居ない子供の興味を惹きつけやうとあせつて居る有樣は、見て居るものにとつては實に痛ましい限りである。どの幼稚園でも子供は其の年齢に於て、又其の發達の過程に於て決して一樣で無いのであるから、お噺にしても、恩物の遊びにしても、乃至は又作業にしてもこれ等の子供の總てのものゝ要求に應ずる只一つの事を授けやうとする事は不合理である。仕事は子供等に適應させられなければならぬのだから、お噺も色々な子供の要求と興味とに適應させる見界で選擇しなければならぬ。この要件を達する爲めには、先づ子供を其の能力に應じて二三乃至それ以上の小さい團體に區分して、是等の團體の各の要求に應ずる樣なお噺を供給するの外は無い。この方法に據る時はお噺に對しての子供の歡喜と利益とを增すのみでなく、保姆自身も亦之に依つて其の喜びと慰みとを一層大きくする事が出來るものである。かうなればお噺を話す事は保姆にとつては一つの樂しみとならねばならぬわけであるが、元來親しみのものであるべきお噺が、幼稚園の時間割の一つであるといふ爲に、義務的に行ひ形式

に流れるといふ樣な事になると其の樂しみといふ事も全く止んで了ふのである。

故に同じ日に異つた團體に話すお噺は違つて居なければならぬといふ事になるわけであつて、唯一つのお噺を選擇しておいて之をどの組へも强いる事はよく無い事で、或る町での一つのお噺を同じ日にどの幼稚園にも話すといふ習慣と同じわけでむしろ有害である。私は其の町でのこの習慣の實際を目擊して、聞かされる子供も可愛想であるが、こんな非教育的方法を强いられる保姆にも尠からず同情した事である。ホレースマン幼稚園の如き園兒には如何に歡迎せられる樣なお話でも、之を非常に窮窟な苦しい生活をして居る西部地方(北米西海岸地方)の外國の子供に聞かせては、却つて其の效果は無いのみならず、注意を亂し、その集中力を破壞する手段となつてしまふのである。これは境遇の惡い子供だから其の靈を養ひ想像を刺戟する樣なお噺は取り去られてしまつて居るといふのでは無いので、そういふ子供の要求にもつと添ふ樣なお噺を聞かせねばならぬといふのである。言ひ換へれは、自分等の日々の生活にあてはめて見てよく諒解の出來るお噺を聞かせよといふのであつて、お噺の內容が子供を見當もつかぬ未知の領域に導く樣な、しかも刺戟を與へられるとか復活されるとかいふ事は思ひもよらぬ事で、むしろ途方にくらされるといふ樣なものではいけ無いといふ事である。

お噺を活す事は一つの技術であつて、天資の技巧を持つて居ないものは、不撓不屈の努力に由つて始めて達する事が出來るものである。保姆はお噺を話す技術者でなければならぬのであつて、假令立派な技術者となれ無いまでも、技術者たらんと努力する事は決して無理な要求では無いと思ふ。說話の技術は元來個人的のものであるから之に上達するには定まつた確實な方則がある譯では無い。併し乍ら經驗の無い保姆を技術的に上達させるべき二三の簡單な暗示はある。

準備に關する暗示

お噺の選擇が來たならば先づ第一に其のお噺の全體のスタイルと姿とを捕捉する心持で讀んで見なければならぬ。

次には、其のお噺の勝れた點と特殊の氣分とを完全に呑込む爲に各人に必要な文繰り返し讀む事である。よく其の語句を一々暗誦する人があるがこれはよくない。お噺は話すものであつて暗誦では無いのだから、上手に話さんとするには之程致命傷を與へるものはない。お噺を覺える人は自ら危險に陷るものであつて、それが爲にお噺を忘れるといふ一大不幸を來す危險に自分を置くわけである。話を始めるとよく子供は何とか、かとか話しかけるものであるが、こんな風に急に話しかけられたり、又は思ひもかけぬ訪問者に不意に室に這入られたりした場合に折角の話の謀をくたかれたりする危險にも陷つたりしなければならぬのである。けれどもお噺の中に出て來る詩文は一々記憶しておかなければならない。それから又何度も何度も繰り返される句があればこれも亦必ず逐語的に覺えておかなければならない。けれどもお噺全體としては、それが全く自分のものになつてしまつた、恰も全く不用意に泉から湧き出て來る樣でなければならない。お噺を上手にするには何も外に方法も捷經も無いのである。暗記したお噺は決して其使命を果す事は出來ないで、唯機械的形式的なものになり終るの外は無いのである。

お噺を自分のものとして仕舞ふためには、其の噺の筋を呑込んだ後本を伏せて一人で思ひ切つて聲を出して話して見、更に都合が好ければ二三の子供を聽衆として大膽に話して見なければならない。若し又身振の必要があれば少しも恐れる事無くする事である」自分を劇中のものとなります事は必要な事ではあるが、それが爲にあまり芝居じみる事は避けなければならない。要するに、お噺をする時には外の仕事の準備をすると同じ樣な注意を以てかゝらなければならない。それからいよ〳〵子供を集めて話す段になつては、フレベルの格言「さあ私は子供と一緒に生活しませう」を胸にもつて、充分の自覺を以て當らなければならない。さすれば、話の際中に校長が這入つて來やうが、學務委員が這入つて來やうか、乃至は又無關係な他の子供が這入つて來やうが更にお噺を挫かれる樣な事は無いのである。お噺と自分とは全く一つであつて少しも恐るべきものは無いのである。かゝる幸福な狀態は決して唯一度の努力位で

得らるべきものでなくして其の理想に對して努力する事を續けて行く間にいつか到達せらるべきものゝある。

お噺の說話に因んで善い言葉を使ふ事の必要である事を忘れてはならない。不注意な發表や拙い發表振に陷る習慣を避ける事には不斷に注意を怠らぬ樣にせねばならぬ。子供は模倣者であつて、實に信ずべからさる熱心を以て話手の發表や語調や又は其發音振をさへも捕へるものである。よき文章を讀む事は正しは言葉の使用の最もよい助けとなると同時に又文字の價値の鑑賞を得るに最もよい手段である。よい言葉の使用と明瞭な發音との兩者は共に習慣が其の大なる要素をなすものである。故に保姆はかゝる良習慣をつける事に努力せねばならぬ。

ミス・ノラ・スミスは話方に關する適切な秘訣を擧げて居る。卽ち第一、純なる文學的趣味、第二、身振及例證、第三、劇的氣分、第四、容易い言語と明瞭な發表、及之に加ふるに氣轉と同情の閃とを以てすることこれである。

氣轉卽ち會話して居る子供等の特殊の要求を感知して噺を之に合せて行く樣に自分を子供に適應させて行く才能は說話を成巧させて行く上の第一義的の要求であつて、天性の話手は慥かにこの天資を持つて居るものである。子供の生活及子供の仕振に對す　同情、噺の精神及內容に對する同情の兩方は共に根本的のものであつて、上手な話手は皆之を具備して居る所である。自分で面白いとも思はないし好きでも無い噺を話さうとすることは間違であつて、自分でしたく無い話に生命を與へる事は不可能の事である。この事は幼稚園ではよく强制的に話す樣に强ひられる場合の度々ある例で、說話術の發達上の致命傷である。

仙人（フエアリテーズ）噺を選擇する場合、其の噺の思想や美點を子供に感ぜしめる事の出來ない所があると思ふ時には、子供の興味や理解の程度に適應する樣に多少の改正を加へる必要のある事がある。例へば、蛙の王樣のお噺の場合、普通幸福なる結婚で終る事になつて居るけれ共、子供に聞かせるものとしては寧ろ、子供が兩親及家庭へ歸つて來る幸福で結んだ方が好いと思ふ。幼稚園時代の子供にとつては結婚などいふ事は少しも興味を起さないけれども、別れる事や歸つて來る事は子供の生活上の生きた經驗である。この理由

を以て「シンデレラ」の如きものは少し後の時代まで話さないで殘して置く方が好い。意地悪い憎むべき傾向の存在として摸寫されたる繼母や繼父の傳統的觀念に對して反對する人には同意するものである。この關係はお嘶の含んで居る眞理に對しては本質的のものでは無い。どんな年寄でも之には同意する事と思ふ。保姆がよく判斷し、氣轉をきかし、同情を持つ事はお嘶を適應させる事にあるのである。

リズムのある詩を讀む事

幼稚園に於けるお嘶の使用に因んで、時々子供等にリズムに富んだ詩を讀んで聞かせる事の價値に就て云ふ事は餘計な事ではあるまい。この種類の詩は澤山は聞かせないで且つ度々繰り返してやる事が必要である。詩のリズムは、子併がリズム的の音を好むのに一致し且つこんな詩を讀んで聞かせる事は子供に本の中にはこんな面白い事があるのだといふ暗示にもなるのである。ユウゼン、フイールドの"The Rock-a-by Lady"の如き詩は子供魅するものである。

又ルーシー・ラーカムの有名な The Brown Thrush"の如き簡單な詩を聞かせてやると、其の詩のリズム、內容の兩方共が子供の心に感動を與へる所の手ごたへを認める事が出來る。 Mr, ClementC. Moore の a Visit From St. Nicholas も亦子供を喜ばせる詩の一である。

小話

おちば

○

マーガレットとスキートビーが睦子さんのお見舞に行きました。丁度其時睦子さんはリンゴの樣に赤い頰をしてスヤ〳〵と眠てお出でゝしたから二人を伴れて來た美いちや